2023 年度　台湾・輔仁カトリック大学臨床実習プログラム

留学期間　2023 年 5 月 29 日～6 月 16 日

留学先病院
1 週目: 天主教耕莘醫院 Cardinal Tien Hospital
2 週目: 新光吳火獅紀念醫院 Shin Kong Wo Ho-Su Memorial Hospital
3 週目: 輔仁大学附属病院　Fu Jen Catholic University

5 月 28 日(日)
台湾桃園空港まで 3 名の学生が迎えにきてくれていて、大型タクシーで 1 週目の実習病院である天主教耕莘醫院の寮まで移動しました。午後からは新店に遊びに行き、川で鳥のボートを漕ぎ、屋台で夜ご飯を食べました。
・寮
天主教耕莘醫院の敷地内にあり、病院までは徒歩 3 分ほどでした。
輔仁大学の学生と 2 人部屋で、寮には共用の洗濯機、乾燥機、ウォーターサーバーがありました。

1 週目: 天主教耕莘醫院 Cardinal Tien Hospital
　Family Medicine での実習を行いました。主に外来を見学し、台湾で実際に行われている診察の様子を見ることができました。患者さんとの会話は中国語でしたが、先生方はカルテに英語で記載されていました。時には同席した研修医が医師と患者の会話の内容を英語に翻訳してくださり、大変助かりました。また、診察の合間には、先生方が診察した患者さんの診察のフィードバックを英語でしてくださり、より深い学びをすることができました。台湾の外来診察の見学を通して、日本の医療との違いを見つけることができました。まず、台湾ではほとんどの人が「全民健康保険」に入っており、保険証には病歴や検査結果、服薬の履歴などが紐付けられており、医師はそれらの情報をコンピューター上で見ることができるので、問診にかかる時間が短縮できていると感じました。また、台湾では Family Medicine(家庭医学)が重要な役割を果たしています。General Medicine(一般医学)との違いは、General Medicine は Disease orientated(疾患中心)であるのに対し、Family Medicine は See humans(人を診る)、という違いがあると学びました。Family Medicine の特徴は 3C2A で表され、それぞれ Comprehensiveness(包括性), Coordination(協調性), Continuity(継続性), Accessibility(近接性), Accountability(責任)です。そして、General Medicine が biomedical problems(生物医学的な問題)を診るのに対して、Family Medicine は biophycosocial problems(生物心理社会的な問題)に対処するという

違いがあります。そのため、Family Medicine では問診に重きが置かれており、患者との良好な関係性を築くことが重要であると教えていただきました。

初日の月曜日には、車で山の中に住む患者さんの往診に同行させていただきました。医師、看護師、研修医、運転手の方と共に山の中に行き、山の中に住んでいて病院に通うことが難しい患者さんのご自宅まで伺い、問診を行い、血圧や血糖測定を行いました。最後には、山の中の診療所に行き、その日患者さんから聴取した内容をカルテに記載し、薬が足りなくなった患者さんに渡す薬を持ち帰りました。医療者の方々は、患者さんの病歴だけでなく、社会的背景も理解していて、患者さんそれぞれに一番合った医療を提供しているのが印象的でした。

この 1 週間は、朝食はルームメイトが寮の近くの朝ごはんのお店に連れて行ってくれ、昼食は Family Medicine の先生方が連れて行ってくれ、夕食はたくさんの学生が美味しいお店に毎日連れて行ってくれました。

6 月 3 日(土)、6 月 4 日(日)

6 月 3 日の午前中に、大型タクシーで新光吳火獅紀念醫院の寮に移動しました。車で 40 分ほどでした。午後からは学生 3 名と淡水や八里に遊びに行き、6 月 4 日は剥皮寮歴史街区や龍山寺に行きました。

・寮

4 人部屋を研修医の方と 2 人で使いました。寮には共用の洗濯機、乾燥機、ウォーターサーバー、キッチン、ラウンジがありました。病院へは徒歩で 15 分ほどでした。

2 週目: 新光吳火獅紀念醫院 Shin Kong Wo Ho-Su Memorial Hospital

GeneralMedicine での実習で、主に病棟で入院患者さんに対する医療を学びました。医師 1 人と研修医 1 人のチームに入り、朝と夕方の回診や入院患者さんへの診療を行いました。先生方が、それぞれの患者さんの病歴、現在の状況、これからの予定などを丁寧に英語で説明してくださいました。その際、この患者さんは、この症状があるから、この疾患を疑い、次にこの検査をし、その結果に基づきこの治療をする、ということを毎日教えてくださり、論理的に考える方法を学び、大変勉強になりました。また、コロナの検査や胃管挿入の補助も行い、コンピューター上で薬のオーダーの方法も教えていただきました。そして、研修医の指導の一環として行われている、研修医が実際の患者さんを診察し、後に医師からのフィードバックを受けるという制度にも参加しました。研修医は一人で実際に外来をする前に、医師に患者さんへの問診の方法や問診で聞かなければならないことを学べるので、とても勉強になる制度だと感じました。

この 1 週間は、毎朝 7 時半からカンファがあったので、朝食はルームメイトと寮の近くで食べるか病棟で準備していただきました。病院には学生用の控え室があり、実習の合間

には病院で実習している学生とお話し、昼食はは学生たちが病院の近くの美味しいお店に毎日連れて行ってくれました。実習後は、病院のすぐ近くにある士林夜市に行ったり、MRT で台北中心地にご飯を食べに行ったりしました。火曜日には、末岡先生と福森先生が病院にいらっしゃり、夜はレストランで Welcome Party を開いてくださいました。

6 月 10 日(土)、6 月 11 日(日)

6 月 10 日の午前中に、大型タクシーで新光吳火獅紀念醫院の寮に移動しました。車で 40 分ほどでした。午後からは学生 2 名と基隆に、6 月 11 日は平渓、十份、ホウトンに遊びに行きました。

・寮

1 人部屋でした。寮には共用の洗濯機、乾燥機、ウォーターサーバー、キッチン、ラウンジがありました。大学の敷地内にあり、病院へは徒歩で 10 分ほどでした。

3 週目: 輔仁大学附属病院　Fu Jen Catholic University

　小児科での実習でした。担当の先生と朝回診を行い、患者さんについての情報を丁寧に英語で説明していただきました。また、火曜日と木曜日にはエコー実習があり、先生がフォローアップできた患者さんにエコーをしているところを見学し、毎回エコーの所見や患者さんの情報を丁寧に説明してくださり、勉強になりました。また、新生児の診察も行い、観察項目を教えていただきました。そして、木曜日は小児科で実習していた 2 人の学生とともに、Human metapneumovirus についてのスライドを作成し、英語でプレゼンテーションを行いました。

水曜日の昼には、輔仁大学の Prof. Lee と昼食を食べ、大学内を案内していただきました。下の右の写真は PBL 室です。5〜6 人でグループを組み、話し合いを行う形式で、週に 2 回行われていたそうです。

　最後の 1 週間は、朝食は同じ小児科で実習していた学生がよく朝ご飯を買ってきてくれていました。昼食は、病院の地下にいくつかのご飯屋さんとコンビニがあったので食べに行ったり、火曜日と木曜日はカンファがあったので、お弁当を準備していただいたりしました。実習後はこれまでの 2 週間で仲良くなった、たくさんの学生や、3 週目に出会った学生と皆で毎日色々な所に遊びに行きました。

6 月 17 日(土)

寮から桃園空港までは大型タクシーで移動し、午後の便で福岡空港へ帰りました。4 人の学生が空港まで見送りに来てくれました。

全体を通して

　今回の実習では、台湾で実際に行われてる医療を見学するという大変貴重な機会をいた

だき、たくさんの気づきや学びを得ることができました。日本の医療との違いや、日本と台湾のそれぞれの医療の良さも見つけることができました。また、今回実習させていただいた病院は市中病院 2 つと大学病院 1 つで、それぞれの病院の違いも感じることができました。そして、台湾の医療者の英語のレベルはとても高く、国際的な医師となるには高い英語力が必須であると強く感じました。

今回の実習は、参加者が私 1 人で、中国語も話せないということもあり、行く前は少し不安でしたが、台湾の皆さん本当に温かく迎えてくださり、不安はすぐに消え去りました。いつも私が困っていることはないか気にかけてくださり、たくさん話しかけてくれ、毎日色々な所に連れて行ってくれて美味しいものもたくさん食べさせてもらいました。台湾の皆さんの優しさに言葉では表せないほど感謝しています。

今回の実習で得た学びを周りにも広めて、台湾で経験した貴重な経験を最大限に活かしていきたいです。また、今回の実習はこれからの自分のキャリアを考える良い機会になり、将来医師としてどのように医療に貢献できるかを考えていきたいと思います。

最後に

今回の留学に際して、ご尽力くださった佐賀大学の先生方、台湾でいつも私を気にかけてたくさんのことを教えていただいた先生方に心より感謝申し上げます。また、今回のプログラムに関して、お力添えをいただきました皆様、本当にありがとうございました。